



聴覚に障害のある子どもへの指導・支援

Q. 聴覚障害児と会話するときに、どのようなことに留意点すればよいですか？

A. 「きこえにくさ」を前提に、安心してやりとりできる関係づくりと、分かりやすい伝え方を心がけることが大切です。

聴覚障害のある子どものきこえ方や会話の理解のしかたには、大きな個人差があります。きこえにくさは、聴力の程度だけでなく、補聴器・人工内耳などの状態、周囲の騒音、話し手との距離や位置、話題の分かりやすさなど、さまざまな条件が影響します。

POINT! まずは安心できる関係づくりを大切に

うなずきや相づち、表情、身振りなどを使い、子どもが「この人と話して大丈夫」「分からなくてもきき返していい」と感じられる関係づくりを大切に、「あなたの話をちゃんと聞いてるよ」というメッセージを分かりやすく伝えましょう。



1. きこえにくさの心理面・行動面への影響

音や声はきこえても内容が分からない、騒音下で急にきき取りにくくなる、話題が変わると理解が追いつかないといったことがあります。反応が遅れたり、分かったふりをしたりする行動は、意欲の問題ではなく、きこえにくさによる疲れ、心理的な不安、恥ずかしさなどからくるものかもしれません。

POINT! 「分かったふり」に気づく

「きき返さない＝理解している」とは限りません。表情や行動をよく観察し、必要に応じて確認することが大切です。



2. 子どもの話しのきき方、話しかけ方の留意点

きき方	話しかけ方
1. 熱心に耳を傾ける	1. 質問から始めない
2. 応答を明確に	2. 目の前のことを話題に
3. 感情表現を豊かに	3. 言語的応答の不必要なことから
4. 相手のことばを繰り返しながら	4. 視線が共有されてから
5. 理解したことを共有しながら	5. 反応をしっかり待つ
6. 分かったことばを手掛かりに	6. 身振りをつけ表情豊かに
7. ことば以外の情報をとらえて	7. はっきり・ゆっくり・繰り返して

3. 会話を楽しめる雰囲気づくり

質問攻めにせず、子どもの興味や気持ちを大切にしながら、「楽しい」「うれしい」「残念だったね」など感情を共有することで、安心して会話に参加できるようになります。